

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	持ち直している	

（注）5年1月判断は、前回4年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価高の影響もみられるなか、観光需要喚起策の効果などにより、持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械を中心に緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	
生産活動	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	
設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は減益見込み	
住宅建設	持ち直しつつある	持ち直しつつある	

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、物価高の影響もみられるなか、食料品が堅調なことから、持ち直している。コンビニエンスストア販売は、観光地周辺の店舗を中心に好調である。ドラッグストア販売は、食料品が堅調であることに加え、新規出店効果もあり好調である。ホームセンター販売は、園芸用品が堅調であるものの、横ばいとなっている。家電大型専門店販売は、節電効果の高い製品への買い替え需要が続いているものの、横ばいとなっている。乗用車の新車販売は、軽乗用車の届出台数が増加するなど、持ち直しつつある。宿泊は、観光需要喚起策の効果もあり、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- コロナ第8波の影響により中高年者の来店が減っているため、ミセス向け婦人服の売上が減少。インバウンド需要は徐々に戻ってきており、ハイブランドの衣料品や化粧品の売上が増えている。(百貨店・スーパー)
- 旅行需要が回復しているため、バッグなどトラベル用品の売上が大幅に増加。物価高の影響により、プライベートブランド商品が好調なほか、冷凍食品など長期保存が可能な商品をセール時にまとめ買いするお客が増えている。(百貨店・スーパー)
- 旅行客の増加により、観光地周辺や駅、空港などの店舗で客足が戻っており、弁当やおにぎり、パンの売れ行きが好調。冷凍食品などの中食需要も引き続き堅調である。(コンビニエンスストア)
- 全国旅行支援を利用した県外観光客の増加により、土産物がよく売れている。ウィズコロナの下で人流が増加しているため、初売り期間中の来店客数は前年を上回るとともに、手頃な価格帯の福袋がよく売れた。(大型商業施設)
- 家電製品などの耐久消費財は、物価高による影響を受けやすく、買い回りをするお客が増えている。(家電大型専門店)
- 軽乗用車は普通乗用車よりも必要な部品が少ないため、挽回生産のスピードが速く、12月の届出台数は例年並みの水準まで回復している。(自動車業界団体)
- 全国旅行支援の開始以降、県外客が増加し、宿泊者数の増加基調が続いている。インバウンドも回復傾向にあり、グループの施設のなかには、宿泊者の約半分を外国人旅行者が占める施設もみられる。(宿泊施設)
- 食事を中心の飲食店は、年末年始の客足が郊外・繁華街ともにコロナ禍前の水準近くまで戻っていた。一方、酒類の提供が中心の飲食店は、コロナ第8波の影響が大きく厳しい状況にある。(飲食業界団体)

■ 生産活動 「緩やかに回復しつつある」

食料品等は、横ばいの状況にある。電子部品・デバイスは、高付加価値製品を中心に増加している。化学・石油製品は、横ばいの状況にある。汎用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置を中心に増加している。輸送機械は、供給制約の影響が緩和されつつあり、持ち直している。

- 物価高により家計への負担が増すなか、価格の安い鶏肉の引き合いが強くなっている。ウィズコロナの下で外食機会も増加しており、外食産業からの注文が増えている。(食料品等)
- スマートファクトリー化や自動運転の進展を背景に、高付加価値製品の需要が増えるなか、高操業を続けている。(電子部品・デバイス)
- 国内需要は、自動車減産の影響で自動車向けがやや足踏みしているが、日用品向けなどが堅調。海外需要は、中国での生産活動が落ち込んでいるため弱い状況。(化学・石油製品)
- 世界的なインフレや海外経済の減速により先行きに不透明感があるものの、5Gの普及やデータセンター需要などを背景に、半導体製造装置の生産台数は年々増加している。(汎用・生産用・業務用機械)
- 新モデル車種を中心に高い需要が続く、フル生産を続けている。仕入先からの部品供給不足の影響が一部にあるものの、生産車種の振り替えを柔軟に行うことで対応している。(輸送機械)

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率はこのところ横ばいであるものの、新規求人数は、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業を中心に前年を上回って推移している。

- 観光需要の増加を背景に、これまで新規求人を控えていた小規模な旅館等からの求人申込みが増加。一方で、宿泊客の増加に対応できるだけの人員が集まらないため、部屋食等一部のサービスを中止している宿泊施設もみられる。(公的機関)
- 若い社員を募集しているが、応募がなく慢性的な人手不足が続いている。(建設業)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10～12月期

- 製造業では「はん用機械器具製造業」などで減少見込み、「情報通信機械器具製造業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では「情報通信業」などで減少見込み、「学術研究、専門・技術サービス業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。

- 生産能力増強のための新規設備投資。(情報通信機械器具製造業)
- 本社移転及び研究棟建設等に係る投資。(学術研究、専門・技術サービス業)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10～12月期

- 製造業では、「生産用機械器具製造業」などで増益見込み、「パルプ・紙・紙加工品製造業」などで減益見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、「学術研究、専門・技術サービス業」などで増益見込み、「農林水産業」などで減益見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「持ち直しつつある」

- 新設住宅着工戸数(4年9～11月)をみると、持家及び分譲は前年を下回っているものの、貸家は前年を上回っている。

【その他の項目】

■ **企業の景況感** 「現状判断は『上昇』超」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10～12月期

- 4年10～12月期の景況判断BSIをみると、全産業では「上昇」超となっている。先行き(全産業)をみると、5年1～3月期は「上昇」超の見通しとなっている。

■ **公共事業**

- 公共工事請負金額(4年4～12月累計)をみると、前年度を下回っている。

■ **倒産**

- 企業倒産(4年10～12月期)は、件数、負債金額ともに前年を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回(4年10月判断)	今回(5年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
熊本県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、物価高の影響もみられるなか、観光需要喚起策の効果などにより、持ち直している。生産活動は、汎用・生産用機械や電子部品・デバイスを中心に緩やかに拡大している。雇用情勢は、持ち直している。
大分県	緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は、全国旅行支援の効果などにより、観光地周辺のコンビニエンスストア販売が好調となっているほか、宿泊・観光関連などにおいて客数が増加しており持ち直している。生産活動は、輸送機械などにおいて供給制約の影響が緩和するなど、持ち直している。雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業において新規求人数の増加が続くなど、持ち直している。
宮崎県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は、百貨店・スーパーやレジャー・観光施設などで客足が堅調となっていることから緩やかに持ち直している。生産活動は、その他工業に弱さがみられるものの、食料品工業や化学工業などを中心に緩やかに持ち直しつつあるほか、雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業や建設業などを中心に緩やかに持ち直している。
鹿児島県	緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は、宿泊・観光施設などで客数が増加していることから、持ち直している。生産活動は、在庫調整の動きがみられるなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直している。